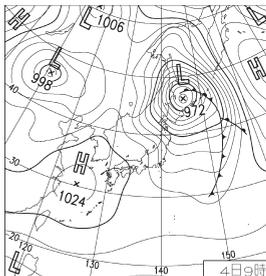


日々の天気図

— No. 107

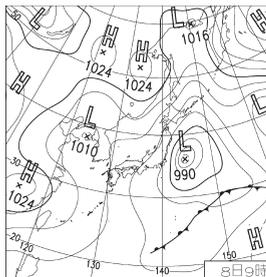
2010年12月

- 3日、太平洋側は大雨となり、神奈川県老名では75.5mm/1hを記録し、観測史上1位を更新。
- 15日～17日、強い寒気が南下し、西日本各地で初雪を観測。
- 23日、低気圧の影響により、北海道えりも岬で最大風速34.5m/s、最大瞬間風速46.1m/sを記録。
(気象庁予報部予報課)



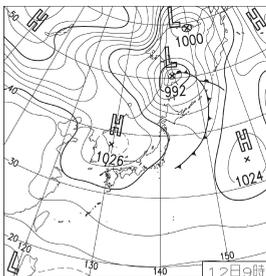
4日(土)北日本で暴風続く

北日本～北陸では雨や曇りで風が非常に強く、交通機関に連休も。青森県八戸で最大瞬間風速35.6m/s、12月の極値更新。その他は晴れ、沖縄、父島等で黄砂を観測。高知で初霜。



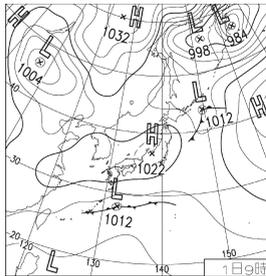
8日(水)南西諸島冷え込む

九州～南西諸島は寒気流入により雨や曇り。南西諸島は最低気温が1月中旬～下旬並。高気圧圏内の中国～関東は晴れ、北日本は低気圧の影響で雪や雨。由布岳等の4山で初冠雪。



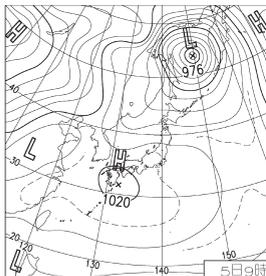
12日(日)北海道はふぶき

低気圧がサハリンで発達し、北海道で大荒れ。北海道初山別で最大瞬間風速36.3m/s、寒気が流れ込み、北日本の日本海側を中心に雪。西日本は朝方冷え込み、高松で初霜。



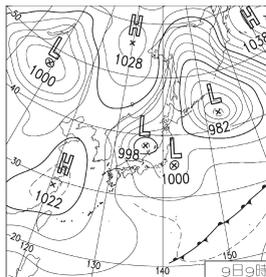
1日(水)穏やかな一日

高気圧に覆われて西～東日本は朝から晴れ、最高気温は10月下旬～11月中旬並。九州と四国では20℃を超える所も。気圧の谷が通過した北海道の日本海側は雨や雪。



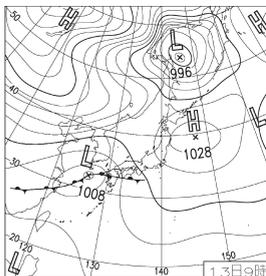
5日(日)北日本の暴風おさまる

北日本は冬型の気圧配置が緩み、暴風も朝まで。東北北部～北海道の日本海側では曇りや雨だが、その他の地域は高気圧に覆われ乾燥した晴天が広がる。埼玉県熊谷で初氷。



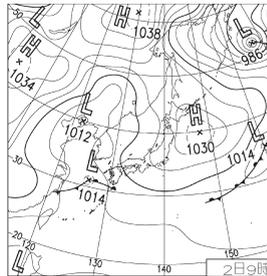
9日(木)日本海側で竜巻等

西日本～南西諸島では寒さが続き、最高気温は1月並。金沢等で初雪。福岡県の背振山等で初冠雪。鳥取、松江で降ひょうあり鳥取では1日4回観測、直径17mmも。新潟で竜巻。



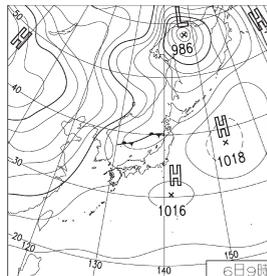
13日(月)九州・沖縄で気温上昇

九州西海上の低気圧が発達しながら東北東進。西～東日本は雨、北海道は雪、暖気のあった九州から沖縄は、最高気温が平年より4～6℃高めの11月上旬並。



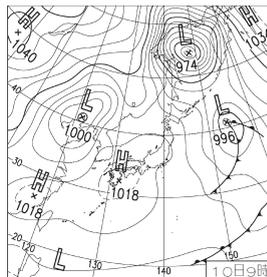
2日(木)発達した雨雲が東進

東シナ海で発生した低気圧が発達しながら日本海へ。発達した雨雲が西からかかり、三重県大台町宮川で56.5mm/1hなど各地で12月の1時間降水量の極値更新。



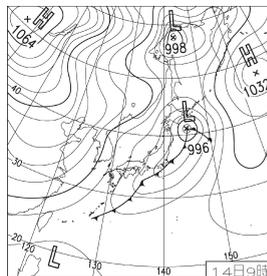
6日(月)北日本は曇りや雨

西～東日本は高気圧に覆われて晴れたが、午後は日本海側の所々で曇りや雨。北日本は低気圧の接近に伴い朝から曇りや雨。最高気温は全国的に高く10月下旬～11月中旬並。



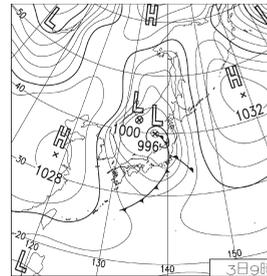
10日(金)九州は真冬の冷え込み

本州付近は高気圧に覆われ、西～東日本や北日本太平洋側は晴れ。北日本の日本海側では雪。九州は最低気温が平年より3～7℃低く、鹿児島・宮崎・佐賀・福岡など各地で初氷。



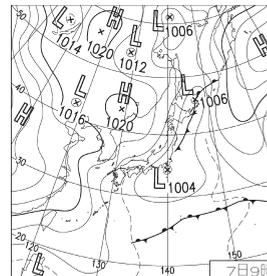
14日(火)低気圧通過後は冬型へ

発達中の低気圧が北海道の東へ進み、日本付近は冬型の気圧配置へ。朝の最低気温は全国的に高く、10月下旬～11月下旬の暖かさ。北海道釧路市幸町では平年差10.1℃高い3.0℃。



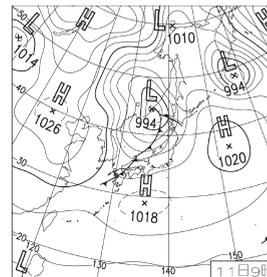
3日(金)低気圧が発達し大荒れ

発達した低気圧の影響で東～北日本は大荒れ。太平洋側は大雨で、神奈川県老名で75.5mm/1h観測史上1位を更新。強風や竜巻などの突風被害多数。西日本で黄砂を観測。



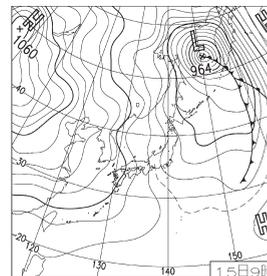
7日(火)寒冷前線が通過

寒冷前線が日本を通過後、夜には関東南岸の低気圧が発達しながら北東進。このため、沖縄・奄美から北日本の広い範囲で雨、一部で雷。北日本では雪になった所も。



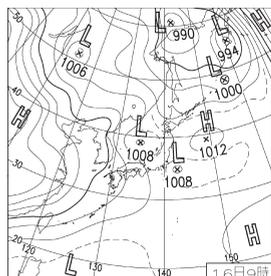
11日(土)南風で気温上昇

発達した低気圧が日本の北を通過。西日本・北日本は曇りや雨。南風が入ったため気温が上昇。最高気温は全国的に11月並。日本海側では10月下旬並の所も。西日本で黄砂。



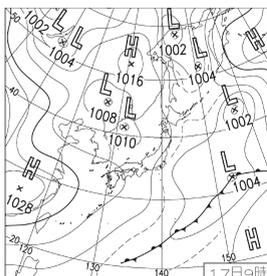
15日(水)強い寒気流入

強い寒気(稚内上空5000m -42.6℃)が流入し、西日本・北日本中心に前日の暖かさから一転した冷え込み。山形県大蔵村肘折で日降雪量82cm、松江・鳥取・富山・仙台で初雪。



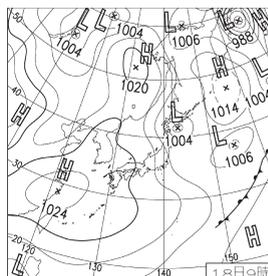
16日(木)真冬並の寒さ

強い寒気に覆われ、全国的に真冬並の寒さ、日本海側は各地で雪、福岡・広島など西日本各地と水戸で初雪、北海道陸別で最低気温-23.7℃。北海道留萌市大町で日降雪量39 cm。



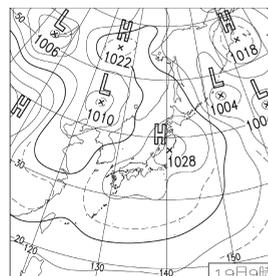
17日(金)冷え込み厳しく

冬型は緩み、日本海側の一部と沖縄を除いて概ね晴れ、放射冷却のため、広い範囲で朝の最低気温が真冬並の冷え込み、彦根で初雪、大阪で初霜、初氷など。



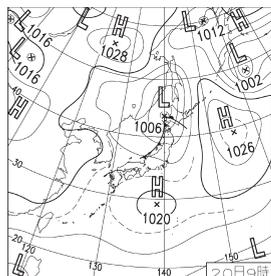
18日(土)北日本を低気圧通過

北日本は、低気圧の通過に伴い寒気移動が強まり、日本海側で風雪が強まる。西日本は移動性高気圧におおわれ、北海道を除く太平洋側で晴れ、横浜で初霜、青森で降りよう。



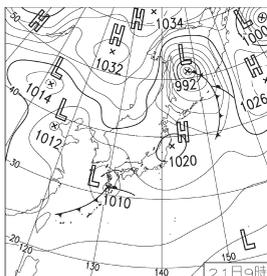
19日(日)北陸等で遅い初霜・氷

日本付近は移動性高気圧に覆われ概ね晴れたが、関東南部で曇が多め、北海道では一部で降雪も、彦根、金沢等で平年比15~32日遅い初霜、徳島、福井等で初氷。



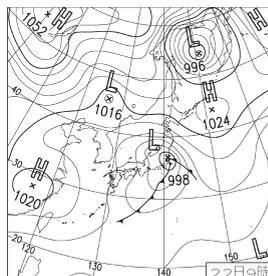
20日(月)気温上昇

前線を伴った低気圧が日本海を北東進、西~北日本の日本海側は前線通過時に雨、低気圧へ南風が吹き込んで全国的に11月中~下旬並の陽気、北海道は日中雨主体、夜は雪。



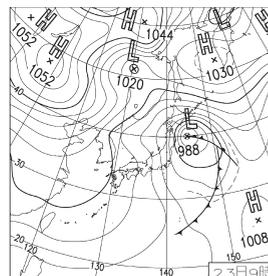
21日(火)西から東へ雨が広がる

本州南岸を東進した低気圧の影響で西日本から東日本へ雨が広がる。北日本は高気圧に覆われて晴れ、朝の冷え込みは弱く、九州と北海道の最低気温は11月並。



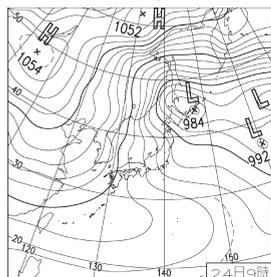
22日(水)関東~北日本 大荒れ

低気圧は発達しながら三陸沖へ、関東~東北各地で強風、大雨。茨城県北茨城市花園で年間極値更新する69.5 mm/1h。暖かい気流が入り東日本以西の各地で最高気温は11月並。



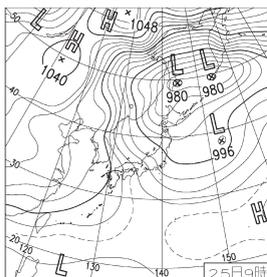
23日(木)冬型強まる

三陸沖で低気圧が発達し、冬型が強まる。低気圧の影響で岩手県古くて72.0 mm/1h、北海道えりも岬で最大風速34.5 m/s、西~東日本の太平洋側を中心に晴れ。



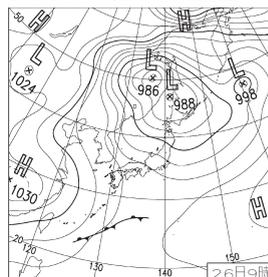
24日(金)スキー場に待望の雪

日本付近は強い冬型の気圧配置になり、北陸から北日本の日本海側では雪、その他では概ね晴れ。新潟県津南で日降雪量50 cm、津で初雪、奈良県と三重県で黄砂を観測。



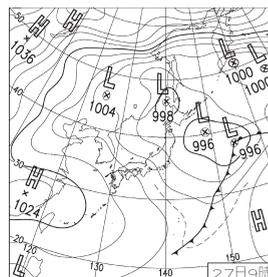
25日(土)「クリスマス寒波」

強い冬型、北日本や北陸中心に暴風を伴った大雪など大荒れ。福島県若松で日降雪量94 cm、広く寒気に覆われて、晴れた関東を除き最高気温も平年より5~8℃低く、東北は真冬日。



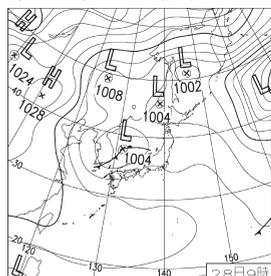
26日(日)西日本真冬並の寒さ

寒気が続き、西日本では日中の最高気温は真冬並。北陸~北海道は雪が続き、秋田県湯沢市湯の岱で日降雪量55 cm、沖縄~九州は雨で、桜島で初冠雪、高知で初雪。



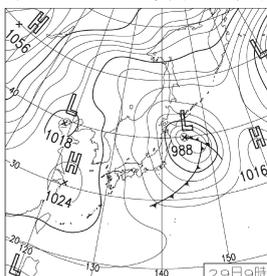
27日(月)弱い冬型

冬型の気圧配置は弱まったが、寒気の影響が残り日本海側では雪、太平洋側では概ね晴れて、明け方冷え込む。熊本・高知で初冠雪、東京初霜、銚子初氷。



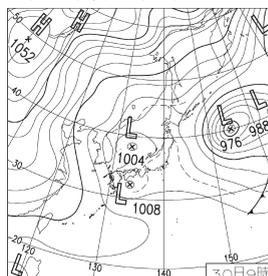
28日(火)九州~北陸は荒れ模様

低気圧が日本海を東進し湿った空気の流入で不安定となり九州~北陸や本州南岸の所々で雷雨。松江13 mm、奈良5 mmの降りようを観測。沖縄や東海~関東は概ね晴れ。



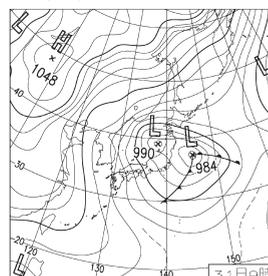
29日(水)伊豆諸島で強風

発達した低気圧が三陸沖へ抜け、日本付近は冬型の気圧配置に。伊豆諸島で風が強く最大瞬間風速が軒並25 m/sを超える。東京都三宅島沖着で30.7 m/s、八丈島西見で30.3 m/s。



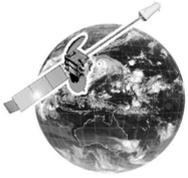
30日(木)西日本に強い寒気

日本海と本州南岸の低気圧が発達しながら東進、西から次第に冬型へ。寒気の影響で西日本~北陸で雪。九州は佐賀で積雪3 cmなど平地でも積雪。京都・東京・宇都宮で初雪。



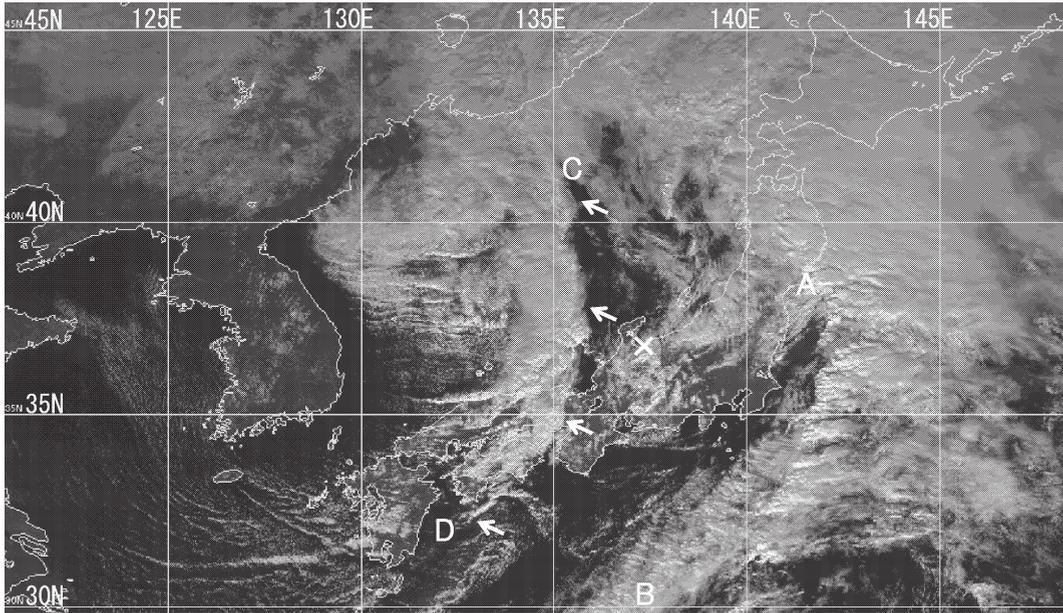
31日(金)大荒れの大晦日

強い冬型の気圧配置。全国的に風が強く、日本海側を中心に九州~東北で雪。島根県大山町大木で日降雪量120 cm、鹿児島、宮崎、名古屋で初雪。鹿児島の最深積雪は22 cm。



今月のひまわり画像—2010年12月

寒冷前線後面における寒気に伴う雲域

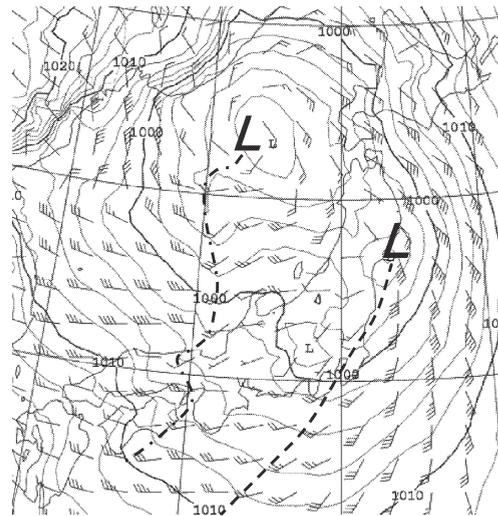


第1図 2010年12月3日12時（日本時間）の可視画像（記号については本文参照）。

第1図は2010年12月3日12時（日本時間）の可視画像で、第2図は同時刻の気象庁メソ数値予報モデル（MSM）による地上の客観解析図である。第1図の記号A～Bは第2図の寒冷前線（破線）に対応した雲域、C～Dの雲域の東縁（矢印の先）は、シアーライン（一点鎖線）にほぼ対応している。このシアーラインは、寒冷前線の後面における寒気の先端に対応しており、可視画像では発達した積乱雲の列として、気象レーダーではライン状のエコーとして確認された。

日本海側の地域ではこの積乱雲の列が通過時、急激に西寄りの風が強まった。富山県射水市（図中の×）では同日14時頃、突風により高さ約40 mの建設中の橋から2人が落下して亡くなるという事故が発生した。事故現場から南東へ約11 kmに位置する富山地方気象台では、13時55分から激しい雷雨となり、14時06分に西の風30.4 m/sの最大瞬間風速を観測し、気温は10分間で17°Cから10°Cへと急下降していた。その後、この雲域は新潟県へ進み、15時半過ぎに新潟市では竜巻による被害がもたらされた。

（気象庁総務部航空気象管理官付 原 基）



第2図 第1図と同時刻のMSMによる地上の客観解析図（等圧線（2 hPa 毎）、風（単位：kt（1 kt=0.51 m/s））、Lは低気圧の中心位置、破線は寒冷前線、一点鎖線はシアーライン）。